

## 五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部附属病院  
2年次研修医 岡田 夏実

大阪市立大学医学部附属病院2年次研修医の岡田夏実と申します。1か月間、五戸総合病院の外科で研修をさせて頂きました。私が青森の地に立ったのは11月で大阪と比べると気温が低く、寒さを感じました。しかしバス、電車を乗り継いで八戸駅までたどり着くと、温かい笑顔でタクシーの運転手さんが迎えて下さいました。なかなか言葉を聞き取れなかった私ですが、ゆっくりと丁寧に話して下さり緊張がほぐれ、翌日からの五戸での研修に心を弾ませたことを覚えています。

外科での研修が始まり、病棟管理や手術だけではなく、訪問診療や健診センターでの画像読影、死後画像診断、外来等様々なことを経験させて頂き、大学での研修とは違った一面も学ぶことができました。健診センターでは、マンモグラフィーや胃透視検査等があり、正常が多い中で異常な部分を指摘するのは画像の正常を理解するのはもちろんのこと、経験を重ねることも重要なのだと思いました。死後の画像診断でも症状を本人に聞けるわけではなく、状況と身体所見と画像から判断が必要でした。訪問診療では自宅や施設を回り、病院への通院が困難な方々の話を伺い、診察をして地域の現状を知ることができたように思います。専門分野以外のことも必要とされることもあったり、症状が出現して病院に来るのではなく定期的に訪問して状態を確認したりという部分に、地域だからこそだなと感じました。安藤先生も小林先生も専門分野以外でも全力を尽くすために日々勉強されており、地域の希望に沿う努力をされていると大変感銘を受けました。

外科としては、CV挿入等も基本的なところから丁寧に学ぶことができましたし、手術でも事前に教えて頂いたうえで、実践的に縫合や糸結び等を経験することができました。実際に行うことで、どこが良かったのか、どうして上手くいかなかったのかを考え練習できましたし、何度もフィードバックして下さい、少し成長できた気がします。外来でも初めて診るような患者さんやその場で処置が必要な患者さんも多く、指示を仰ぎながらではありますが、自ら治療することができ、その後の経過を診る機会まで与えて頂きました。

地域研修では、それぞれの地域で必要とされることがあり、その地域を担う病院だからこそ、期待に沿えるよう努力していくことが必要なのだと感じました。私も、安藤先生や小林先生のように専門分野はもちろん、幅広い分野で知識や技術を磨いていけるよう日々精進していきたいと思っています。